

2011 年度第 8 回執行理事会議事録

期 日：2012 年 2 月 11 日（土，祭日） 13:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：宮下会長 久田副会長 渡部副会長 藤本常務理事 斎藤副常務理事 石渡 井龍 小嶋 内藤 中井 平田 向山 山口 各理事，（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：高木 西 藤林 星 坂口 各理事

*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者 13 名，委任状 5 名，合計 18 名の出席。

*前回議事録の承認

I 審議事項

1. 津波堆積物のワークショップ開催について（関東支部提案）

津波堆積物の判断基準等を固めるためにも議論をするのはよいので基本的にはやる方向。堆積学会は連合大会の時にワークショップを行う見込み。それ以降の適切な時期に他学会も巻き込んでワークショップを開催できるよう進めたい。行事委員長を中心にすすめる。堆積学会長でもある伊藤慎会員と相談して進める。

2. 地質調査研修事業について

研修事業については、関東支部に実質的な運営を委託することとしたが、関東支部から、実施にあたっての本部と支部の関係性、実施の枠組み体制などを明確にするように要請が出され検討した。

研修事業は学会としての次期事業年度での重要な事業ともなるので、事業計画にも盛り込み、本部と支部との関係を明確にして枠組みをつくり、本部ならびに支部の仕事の切り分けをしてやっていくこととする。今回はパイロット的な位置づけとして研修事業の具体的な事業計画は執行理事会がたて、執行理事会側の担当者も決める必要があることなどを話し合い、次回に以上のことを整理して提案することとした。

3. 広報誌ジオルジュの発行、SNS 友の会の名称、その他関連規則類

（SNS 利用規則（修正版）、広報誌編集規則、友の会運営細則）について広報委員会からの提案に基づいて以下のとおり検討した。

1) ジョルジュの発行部数について、創刊号は宣伝用も含め、10000 部くらい必要ではないか、全会員に配布、博物館等で宣伝用においてもらうことを考える。

2) ジョルジュの取材費は質の向上のために必要。取材先から取材費が出るような場合は、金銭のやりとりは学会を通しておこなう。広告ページ（表三、四）を設け出版資金とする。広告は編集委員等の営業活動を認め、広告料の 1 割を（業界慣例）謝金として払うなどの方針で進める。

3) SNS 友の会の名称は、「ネット地学部“ちーとも”」とする。

4) 広報誌編集細則，SNS 運営細則（資料 1 タイトル訂正）は親規則の有無も含めて関連を精査し，規則にするかどうか再検討する。SNS 利用規則の修正を確認し，規則名称を友の会の名称に合わせることをとする。

5) 前回、開始することを決めた Q&A「地質学者に答えてもらおう」は、学会 HP「地球なんでも Q&A」からリンクを貼る、Geo-flash 等で会員にも周知する。

4. その他

1) 山田科学振興財団研究助成への推薦希望者1名

「火星北極冠スパイラルトラフ形成機構の解明」(大阪工大 横川美和)
異論は無く承認した。

2) 名誉会員の推薦手続き等について

推薦委員会等の意見も聞いて、懸案事項があれば理事会で共有し、今後検討していく。推薦基準の再検討は必要かもしれないが、いま今、大きな問題は出ていない。名誉会員の会員としての権利(投票権がなくなる)と義務(会費免除)については、シニア会員制度(年会費、大会費)等も考慮しつつ議論をしていくことになる。

3) 支部選出理事について

選挙管理委員会からの要請を受けた、同数トップ当選者から、代表理事を選出する件は、理事会のメール審議により郵送によるくじ引きに決まった。

現在の地方支部区選出代議員は支部区のトップ当選者が支部選出理事になることが決められているが、複数の同得票者の問題等も含めて、支部代表理事の選び方については、次の選挙に向けて検討を要することとした。

4) 超地球史年表について

査読者の意見によらない形で、新たな形態で再々投稿がなされた。

著者としては大きなポスターを望んでいる。これまで査読等や著者との交渉を担当してきたリーフレット出版企画委員会から、委員会の判断を超えることとして、出版の可否ならびに希望の仕様で出版を可とした場合は、当該企画については、執行理事会の企画出版委員会が直接扱う、ということが提案された。

検討の結果、今後は、提案どおり企画出版委員会の扱いとすることとした。また著作権の対応とJISへの対応、その他出版の形態や販路等について検討した。リーフレット企画委員会、著者に対しては、担当理事から説明し、返答する。また、その後メールによる議論で、新刊の白尾・清川著「全地球史」(岩波書店)の内容との関係について懸念が表明されたので、企画出版委員会で調査することになった。

II 報告事項

(1) 運営財政部会：総務委員会

1. 選挙管理委員会からの報告に基づき、中部支部区代表理事の選出方法について理事会にメール審議を要請、審議の結果、郵送によるくじ引きと決まった。選挙管理委員会に対し、郵送によるくじ引きを実施するよう要請した。

なお、これに伴い規則改正の必要性があるが、理事からいくつか意見も出ているので4月以降の理事会で検討する。

2. 学術会議科学者委員会男女共同参画分科会より会員の男女比等についてのアンケートに回答(男女共同参画委員会堀委員長確認)
3. 青野監事からの辞任届：定款上の整合性をはかるため監事任期の調整

今度の総会で辞任を承認し、選挙報告を行って、新たな幹事が承認される手続き。

<共催・後援依頼、他団体の募集等>

1. 地球化学研究協会より「三宅賞」および「奨励賞」の公募(8/31〆切):News誌, HP, Geo-flash

に掲載.

<会員>

1. 今月の入会者(7名)

正会員(5名) 加納大道 石川 晃 岸本充弘 箕輪賢二 宮本 毅
院割(2名) 永谷方敬 恵口 響

2. 1月末日会員数

賛助:26 名誉:71 正会員:4050(正会員:3854,院割正会員:184,学部割正会員:12)
合計4147(昨年比 -91)

3. 2011年版会員名簿を発行し、会員に配布した。

<会計>

1. 合同大会の収支について、鉱物科学会との間で検討中、概ね了解点に達しつつある。

全体で69,374の黒字。参加人数比等のルールで鉱物科学会と割り振りを決める。

(2) 広報部会：広報委員会(坂口、内藤)

- ・サイエンスライターの第1回ミーティングを1/12(木)開催した。
- ・ジオルジュ創刊号ならびに友の会メルマガについて、具体的に検討をし、発行に向けて準備を開始した。
- ・ジオルジュ：創刊号5月10日発行、2回発行/年、フルカラー16p(うち広告2p)、編集長 坂口理事(広報担当理事)、創刊号：デスク笹沢、サブデスク 土屋、
- ・友の会(SNSによるネット地学部“ちーとも”)メルマガ：4月創刊、6回配信/年

(3) 学術研究部会：行事委員会(星)

1) 2012年大阪大会関係

- ・見学旅行案内書の原稿(10コース分、投稿期限1月末)は、これまでに5件が投稿され、現在査読中。残り5件は投稿が遅れている。
- ・大会後援の申請準備を、大阪LOC事務局長が中心になって進めている(大阪府、大阪市、堺市の各教育委員会、主要新聞社等)。
- ・トピックセッションの募集を開始した(締切3月12日)。
Geology of Japanのトピックセッションを考える。

2) 2013年学術大会(仙台大会)

- ・GSAとの共催について、石渡理事から報告。
- ・会場確保の都合上、とりあえず1日目に萩ホール(大ホール)を使う方向で予約。

(4) 学術研究部会：国際交流委員会(石渡)

とくになし

(5) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会(小嶋編集委員長)

1) 今月の編集状況(2月9日現在)。

- ・118巻1号(58p)発行済み、2号 校正中
- ・2012年度投稿論文 総数6編[論説4(和文4)、ノート1(和文1)、報告1(和文1)] 口絵1(英文1)
- ・査読中54編 受理済み24編(うち通常号11 特集号13)
- ・1月号掲載の訂正記事の取り扱いについて、編集委員会における議論内容を確認し、必要なら再度議論してもらうことになった。

- (6) **編集出版部会：アイランドアーク編集委員会**（井龍編集委員長）
- ・編集状況の報告
 - ・バーチャル特集号(プレカン特集)が春頃オープンにできる予定。
- (7) **企画出版委員会**（山口）
- ・超歴史年表原稿の再々提出版→審議事項4-4)へ
- (8) **社会貢献部会**（藤林・中井）
- ・地質の日：応用地質学会との共同行事について
行事内容、都内の見学コースについては検討が進み、実地検討も行った。
 - ・高校生向けの地震に関するアンケートを来年度行う予定
- (9) **ジオパーク支援委員会**（高木）
- ・昨夏の地震火山こどもサマースクールの収支は過不足なく収まりそうである。
- (10) **地学オリンピック支援委員会**（久田）
- ・1/21（土）に委員会を開催、委員会議事録、活動報告が提出された。
- (11) **震災復興事業プラン検討WG**（高木・向山・藤本・斎藤）
- ・事業完了の報告：歌津魚竜館化石標本レスキュー事業（永広）
3月のニュース誌に報告が載る予定、今後は原稿が来次第、随時報告を掲載していく予定。
 - ・下記の3件については支出済み
微生物による放射性物質の除染の実証試験（高橋康則）
関東平野内陸部の住宅地での盛土材質の相違による液状化要因の解明
放射性セシウムに汚染された水田土壌のカヤツリグサ科マツバイによるファイトレメディエーション（榊原正幸）
- (12) **連携事業委員会**（渡部）
- ・原子力安全基盤機構からの受託事業について、事業報告書の進展が遅れており、契約での委会開催日程と報告内容の再確認と進行調整を、2月1日に内藤・渡部両担当が機構にて行った。
その結果は学会委員への報告の通り。
- (13) **支部長連絡会議**（渡部）
- ・四国支部：「讃岐ジオパークをめざすシンポジウム」（3/3, 3/4、香川大学）を後援
- (14) **地質災害委員会**（斎藤）
- ・来年度の予算等について検討中。
- (15) **専門部会**
- ・構造地質部会編集、朝倉書店出版「日本の構造地質100選」について、4月刊行予定で進んでいる。販売価格をおさえるために印税はなしとした。